

# 生ごみしたい肥の作り方紹介

## エコトピアで資源化講座

NPO法人富士市ごみを考える会と青葉台地区ごみマイスターは7日、「生ごみ資源化講座」を大淵の市新環境クリーンセンター循環啓発棟・修理再生施設ふじさんエコトピアで開催した。13人が参加する中、マイクロプラスチックに関する紙芝居の上演



たい肥作りの手順について解説

や昨年同NPOとボランティアが取り組んだごみの組成分析の結果報告、生ごみしたい肥の作り方の実践などを繰り広げた。



作業に挑戦する参加者たち

生ごみしたい肥の作り方の実践では、参加者が持参したこの日の朝食時に出た生ごみと、

有機物を発酵させた「EMぼかし」を使用。バケツの中にEMぼかしと水を切った生ごみを交互に入れていき、空気が入らないように上から押し、バケツのふたをしめてからさらに空気を抜くという作業の手順を紹介した。このうち特にポイントとなるのは、生ごみの水分をしっかりと切ることで、空気をできる限り入れないことなど。だとし、空気を抜く理

由については「有効な微生物であるEM菌が、空気に触れるのを嫌がるため」と説明した。作業に挑戦した参加者たちは「思ったより簡単」「いい肥料にな

るのが楽しみ」などと感じを伝えた。同NPOの小野由美さんは「一人一人が生ごみの資源化を実践することで、富士市全体の生ごみが大きく減

る。たい肥作りは決して難しくはなく、気軽に取り組めるものなので地域全体に広がってほしい」と期待を込めた。